

(参考様式3)

会 議 録

会議の名称	令和2年度第2回東村山市創生総合戦略推進協議会				
開催日時	令和2年9月4日(金) 午後6時30分から午後8時20分				
開催場所	いきいきプラザ3階 マルチメディアホール				
出席者及び欠席者	<p>●出席者： (委員) 山本尚史会長、山口和歌子副会長、今橋義孝委員、三島雄介委員、前村敦委員、溝井裕之委員、村田徹委員 (理事者) 渡部尚市長 (市事務局) 武岡地域創生部長、新井地域創生部次長、柚場シティセールス課長、高橋シティセールス係長、伊澤シティセールス課総合研究業務員</p> <p>●欠席者： 當麻武勇委員、榊原弘泰委員</p>				
傍聴の可否	可	傍聴不可の場合はその理由		傍聴者数	2名
会議次第	<ol style="list-style-type: none">1 開会2 市長挨拶3 議題<ol style="list-style-type: none">(1) 協議事項<ol style="list-style-type: none">①「第2期東村山市創生総合戦略」の素案について②「第2期東村山市創生総合戦略における数値目標・KPIの考え方」について4 その他5 閉会				
配布資料	<ul style="list-style-type: none">・令和2年度第2回東村山市創生総合戦略推進協議会次第・【資料1】第2期東村山市創生総合戦略(素案)・【資料2】循環図・【資料3】SDGs一覧表・【資料4】第2期東村山市創生総合戦略における数値目標・KPIの考え方				
問い合わせ先	地域創生部シティセールス課 担当者名 高橋 電話番号 042-393-5111 内線2922 ファックス番号 042-393-6846 e-mail citysales@m01.city.higashimurayama.tokyo.jp				

会 議 経 過

1 開会

(会長)

本日の協議会は、委員7名出席。委員数の過半数を満たしているため、東村山市創生総合戦略推進協議会設置規則第6条第2項の成立条件を満たしている。

次第に沿って進める。

平成28度の第1回協議会において、本会議は原則公開とし、その都度、案件によっては一部非公開とするとした。本日の会議内容においては、非公開とする特段の理由はないと判断されるが、本日の会議は全て公開ということによろしいか。

— 異議なし

(会長)

傍聴の方について、事務局にてご対応いただきたい。

— 事務局確認、傍聴者2名入室

2 市長挨拶

(市長)

本日は公私とも大変お忙しい中、コロナ禍の中、また突然の雷雨でお足元の悪い中、第2回東村山市創生総合戦略推進協議会にご出席をいただき感謝する。

第5次総合計画の基本構想部分について、現在開催されている議会にてご可決いただいたところである。この計画は、来年度から2030年度までの10年間にわたる市の指針となり、目指すべき将来都市像は「みどり にぎわい いろどり豊かに 笑顔つながる 東村山」と定めさせていただいた。総合戦略は、総合計画の「にぎわう」の部分のいかに作っていくかということに当たると言える。

コロナ禍という状況ではあるが、市として、市民の皆さんにとって未来が開けるような良い計画とし、推進していきたいと考えているので、引き続き活発な議論をお願いしたい。

3 議題

(会長)

議題(1) 協議事項の「①「第2期東村山市創生総合戦略」の素案について」事務局より説明願いたい。

(事務局)

— 【資料1】第2期東村山市創生総合戦略(素案)について事務局より説明

(会長)

ここまでの中で、質問や意見があれば、お願いしたい。

(委員)

総合戦略の体系をお示しいただいた。その中で基本目標2の部分、13ページでシ

シェアオフィスの誘致等が謳われており良いと思うと同時に、女性のワークライフバランスも考えると、コロナ禍ではテレワーク・郊外型のシェアオフィスがますます推進されると思うので、シェアオフィスと保育所の隣接等も考慮していくべきであると思う。

19、20 ページでは、良好な住環境の整備ということで、土地の価値を上げるための施策であると理解した。「利便性」「住環境」「安全」という3つの点が強いと、土地の価値は上がっていくと思う。都市計画の変更において、これらのことを考慮していただき、ライフラインの整備も含め行ってほしい。

(委員)

東村山駅から新秋津駅に抜ける道路沿いで用途地域の変更があったようだが、地域が限定的で、一過性で終わってしまうように感じる。これまでの中で、用途地域の変更が容易ではないことは理解している。都市計画自体の変更ではなく、建物単位、例えば市にメリットのある施設を開設した場合に、容積率等を緩和する方が、市全体に広がっていくのではないかと考えた。

(委員)

総合戦略の全体的な書きぶりについて、まだ全体的にボヤっとしているように感じた。総合戦略全体として、何が言いたいのか。見出しが取れない。何かしら柱となるものを出していくと、とっつきやすくなる。第1期総合戦略を読むと、市民向けに作っている。市民が手に取りやすい、子どもでも何かしら引っ掛かりのあるものを作っていくと良いのではないかと。現在の書きぶりでは、どの地域にでも当てはまる内容となっており、東村山の特徴をもっと打ち出していくと、「なんだろう」と思って手に取りやすくなる。全体の書きぶりをもっとインパクトのあるものにした方が良いと思う。

第2期総合戦略については、これまで地域金融機関との連携についても話が出ていたと思う。そこをもう少し大きく打ち出せばいいと思う。

また、西武線沿線は非常に面白い線だと思っている。たとえば、飯能にある「ムーミンパーク」と東村山の「トトロ」を、点と点ではなく、農やみどり等に位置づけ広く見せることで、もっと人が見向きをしてくれるものになるのではないかと感じた。

(委員)

書き方の根本的な部分を確認したい。基本目標という大きな目標の下に目標を達成するために行う基本的方向、具体的な施策、取組がある。目標である KPI がまだ決定していない中で、それを達成するためのものを考えるということが難しいように感じている。目標があります、数値はこれです、これを達成するために行う取組はこれです、というような手順かと思っていた。今の決め方だと目標と具体的な施策との乖離が出てしまうのではないかと感じた。

(会長)

KPI はどのレベルで取るかで話は変わる。基本目標レベル、基本的方向レベル、事業ごとのレベル等。すべてを取ると煩雑になる。総合戦略は、基本目標及び具体的な施策でそれぞれ KPI を取る。この場合 KPI を決定しなくても、ある程度の施策の議論はできると思う。正確にやるためには、方向性の KPI を揃え、取組との整合性

は必要だが、KPI を先に決めてしまうと、それを満たしていれば良いという話になりがちである。そのため、KPI と施策は別に決めて、それが合致していれば良いと思う。

(事務局)

具体的な施策については、次回本格的に議論いただく予定である。現在、具体的な施策は箇条書きにしており、今後庁内で、具体的な施策の方向と KPI を調整していく。案が固まったところで次回お示し、具体的な施策の KPI が固まったあと、全体の整合が取れているかということをご確認いただきたいと思う。

今回は、大きな方向性が定まったところで、基本目標ごとの数値目標をこの後お示しする。

(委員)

8 ページの子どもの支援のところを見ると、具体的な施策内容で教育にかなり力を入れていると感じた。教育に力を入れることは良いことだが、他市では、子どもの貧困家庭への支援を手厚くしているところもある。具体的には「こども食堂」の整備などになり、24 ページの部分でも良いと思うが、検討することも考えられる。それというのも、最近の「こども食堂」は子どもだけでなく、地域の高齢者コミュニティの拠点となっているようだ。自治会活動に代わる新たな地域のボランティア活動拠点と言える。「こども食堂」はこの名称から比較的若い世代の参加が見込め、単なる子どもの貧困対策としての食堂から、地域課題の解決拠点という広い定義に変わってきている。

(副会長)

東村山市独自のことと言えば、「住環境の良さ」が大きな1つだと思う。また、8 ページと 16、17 ページに関してだが、先日、子どもが「給食で東村山産の梨や葡萄を食べたよ」と嬉しそうに話してくれた。学校栄養士さんが話してくれた内容を、一生懸命伝えてくれる。すでに実績として、資源としてあるので、これらを強みに変えて文章にしていけば、独自の特長として訴えられるのではないかな。食育等の分野にも関係してくるのかもしれない。

(委員)

13 ページの多様な働き方への支援について、タブレット等を利用してテレワークができるようになると、自宅で仕事しづらい人も増えてきて、今後シェアオフィスの利用等につながっていくようになると思う。

また、22 ページのような新技術の活用について、日経新聞で 2022 年 4 月から納付書の QR コード決済が始まることが報じられるなど、コロナ禍の中、住民サービスのキャッシュレス化は進めないといけない。そういった外に向けてのキャッシュレス化ということでこれらの施策を掲げていると思うが、それと並行して業務の効率化、庁内のキャッシュレス化も行っていけると良いのではないかな。

(会長)

1 点目。総合戦略でいかに東村山らしさを出すかということについての考え方だが、東村山らしい課題があるのが答えの一つではあるが、全国似たような課題がある中では、東村山らしい、もしくは東村山の資源で課題を解決するとなれば、東村山らしさが出ると思う。

細かい書きぶりについて言うと、基本的方向の下にある現状と課題では統計データ、数字が省かれている。基本目標の下の記述にある統計等を入れていけば、さらにわかりやすくなると思う。

2点目。15ページのデジタル地域通貨の導入について、各地で取組を行っているが、失敗例の方が多い。地域通貨を発行するということは発行体が債務を持つということである。デジタル地域通貨の導入については、しっかりとした検討が必要である。地域通貨に関しては、発行体の債権債務状況の把握、発行通貨の回収方法、発行体と市民との負担割合などが課題となろう。さらに、デジタル化ということは、事業者がデジタル地域通貨を処理するための機械を持ってもらわなくてはならない。誰が費用負担するのかなども課題となる。

3点目。22ページのスマートシティについてだが、物理的に市役所に来なくても手続きができ、スマートフォンで休日・夜間でもいかに対応できるかが将来的なゴールとなるかと思われる。スマートフォンを利用する人が増え、パソコンを活用する人が減っている中、セキュリティの問題や新しい情報をいかに提供していくかが課題になっていくと思う。

(事務局)

東村山らしさという言葉がたくさん出てきた。昨年度から皆さんからいただいている意見を紡いで、体系化し、何が論点かということを見やすくするために、方向性を箇条書きで置いたことで、無味乾燥な文章になっていることが理由の一つだと思う。並行して庁内で調整していることもあり、次回お示しする書きぶりが、大きく変わってくる可能性もあると感じている。

東村山らしさということで、会長より今後の取組ではないかとのお話があったので、その書きぶりに気を付けていかないといけないと思う。他市とは違う解決策ということで、部内でよく話をするのは、差別的優位な点は何かということ。東村山が持っているポテンシャルをいかに磨き、他市と差別化するのかを表せれば良いと思う。

都市計画については、委員よりテナントの容積率の話も出たが、面的整備を行う必要があり、正直難しいと感じている。今回話に出た用途地域変更は、こうした面的整備を行い、既存の工場・企業がより成長するためのものであり、それにより土地の価値を上げることにつなげていくものである。

また、デジタル化の話もいくつか出てきたが、市民の方の利便性のみでなく、庁内のデジタル化については、総合計画や行財政改革の方で取り組んでいる。今後もさらに力を入れて進めていきたいと思う。

(委員)

わかりやすいという書きぶりの話でいうと、記事を書くときに気にするのは「数字」と「固有名詞」である。食育の話でも、物の名前が入っていることが大切だし、数字と一緒にいると、訴えかけてくるものがある。それを意識した書きぶりにすると、見やすくなるし、わかりやすくなる。

例えば、9ページには具体的なお祭りの名前等が出ていて、なるほどと思う。こういうものがたくさんあり、一つにまとめておいてもらえると、わかりやすく訴えかけるのではないか。

(委員)

12 ページの基本的方向に書かれている文章は、どの市にも当てはまること。また 13 ページにあるワンストップという表現は、市民と市が描くものに乖離が出る可能性がある。起業・創業者に寄り添い、地域のことを熟知するコンシェルジュ的なものが出来れば、東村山らしさになると思うので、KPI や具体的な取組の策定にあたって、考慮していただければと思う。

(会長)

13 ページの起業・創業について、コロナの前と後で支援すべき内容は変わっていると思う。コロナ前は人不足により、起業・創業に意味があった。しかし、コロナ後、需要が減ってしまっている。購買意欲が減っている中での起業・創業の支援は質が変わってくると思う。起業・創業の仕方のみでなく、どうやって売っていくのか等、しっかり支援していかないと意味がない。中小企業支援や小規模事業者支援と同じような支援が必要になっていくと思う。一方で、コロナショックにより本業で稼げず、起業・創業する人は増えてくるかもしれない。マーケットは冷え込んでいる状況なので、しっかり踏み込んで支援していかないと、基本目標の達成にはつながらないと思う。

(事務局)

- 【資料 2】 循環図
 - 【資料 3】 SDGs 一覧表
- 事務局より説明

(会長)

ここまでの中で、質問や意見があれば、お願いしたい。

(副会長)

先ほど、「農」を活かした取組の部分で、食育の話をさせていただいたので、4 の教育も当てはまるのではないかと思う。テレワークを行うようになって、地球環境というものを考えるようになった。エアコン一つとっても、常に動かしていることに疑問を抱きつつ、どうしていいかわからない。自分の今の状態とこの表を照らし合わせると、環境問題は難しいものだなと感じている。

環境分野を中心に○がついていない項目もあるが、この表すべての項目に○がつくのが東村山だと言ったら、独自の特長になるのではないかと感じた。

(会長)

SDGs は発展途上国の課題も多く含まれているので、東村山はすでに乗り切っている課題もあると思う。一方で、私たちに問題はないが、よその地域の問題を東村山から解決していくというのも、一つの SDGs への貢献だと思う。

(事務局)

総合戦略はすべてを網羅している計画ではないので、すべてに○がつかないが、最上位計画である総合計画上では、貢献している形となっている。

(委員)

SDGs で掲げている 17 項目は、あくまでもゴールであって、その下に 169 のターゲットがぶら下がっている。それらを達成することで、ゴールに結びつくというのが SDGs の立付けとなっている。169 のターゲットを細かく見ていくと、施策に結びつかないものも多い。

東村山が他市と比べて非常に特徴的と感じるのは、民間からの事業提案や民間との連携を積極的に行っており、SDGs でいうと 17 のパートナーシップにあたると思う。この部分をもっと PR してもよいと思った。

(委員)

目標 2 の持続可能な農業の促進という部分でいうと、聞くところでは、農家は、農業以外の収入で生計が成り立っているという背景がある中、持続可能として〇がついていることに疑問を感じる。農家としっかり向き合っていく必要があると思う。

(会長)

農業関連ビジネスは手間がかかる割に実入りが少なく、事業継続が不可能になることもある。すぐに解決できることではないが、総合戦略で取り上げて、取り組み続けることが大切である。

(会長)

次に、議題（1）協議事項の「②「第 2 期東村山市創生総合戦略における数値目標・KPI の考え方」について」事務局より説明願いたい。

(事務局)

—【資料 4】第 2 期東村山市創生総合戦略における数値目標・KPI の考え方
事務局より説明

(会長)

ここまでの中で、質問や意見があれば、お願いしたい。

(委員)

KPI の検証について、可能な限り 1 年に 1 回検証できるのは良いと思う。基本目標 3 については、毎年度把握が可能だと認識しているが、基本目標 1・2 についてはいかがか。

(事務局)

毎年度可能なものとしている。

(委員)

KPI の設定するところが、基本目標と具体的な施策ごとにおいていると思うが、具体的な取組に設定した方が、進捗管理がしやすくなるのではと思うのだが、その調整はできないのか。

(事務局)

具体的な取組に関するKPIはそれぞれ設定しており、毎年度進捗を報告させていた
だいている。総合戦略のKPIをそれ自体にしたほうが良いというのも確かだが、各々
の事業のKPIとなると、基本的方向の進捗が図りづらくなってしまうため、このよう
な形にしている。

(事務局)

具体的な取組については各所管の事業になるので、そこについて、事務局がハン
ドリングすることが難しい。かつ、当市では目標管理制度の中で毎年各所管が事業
の評価を行っており、取組としてはそこで評価できる。そのため、その上の段で効
果を見ていきたい。行政が持っている数値は限られているので、すべては網羅でき
ないが、具体的な施策の段階でKPIを設定したい。

(市長)

KPIの設定の仕方は非常に難しい。今回挙げている数値についても、行政の努力だ
けで結果が出せるものではなく、社会情勢に左右されることが非常に多い。特に社
会移動数は、住宅供給戸数が多ければプラスになり、供給が沈静化すればマイナス
になる。行政の努力でどこまで均衡できるかということはかなり難しい。

しかし、具体的な取組の進捗で押さえていただけだと、アウトカムがどういう形
で表れているのか測り知れない。総合戦略を作る大きな目標は、人口減少を克服す
ることなので、社会増・自然増につなげられるようなことを施策として立て、結果
として、数値目標の達成が図れば良いという形で設定している。

目標2の日中の人口を増やすことも同様だが、他市に比べ市内で働く場が少ない
ので、何らかの形で改善できるよう、こうした目標を設定している。

(会長)

事業を行ったことに意味があったのかということがKPIにつながってくると思
うが、同時に行政の取組以外の要素もアウトカムに影響してくる。

一対一で関係していれば話は早いですが、複数対複数、複数の要素が結果に絡んでく
ると一致させることは難しい。しかし、因果関係は難しくとも、KPIに入れるものは
相関関係があるものにして欲しい。

また、文章の中に、目標に対して行政が行うことと、そのほかに影響を受けそう
な要素を予測して予め入れてしまうと評価をしやすくなると思う。そうすれば、想
定外の要因が起きたときに、なぜ想定できなかったのかを議論すれば良いことにな
る。

(事務局)

第1期の時にもエクスキューズを記載していたが、第2期では、一つ一つの要素
について深く表記できるように検討していきたいと思う。

(委員)

フルセットで取り組むことは不可能だと思うので、何に重点を置いているのか、それをしっかり表したKPIを設定できれば良いと思う。

(委員)

人口の滞在率だが、結果が出るタイムラグはどのぐらいか。

(事務局)

半年ぐらいと認識している。このデータのみ毎月取れる。

(会長)

滞在率は、季節等で影響は出てくるのか。

(事務局)

ほとんどない。休日はイベント等により多少影響が出てしまうが、今回KPIに設定する予定のデータは平日の日中であり、通勤通学で集まってくるであろうということで、これまでのKPIより適していると考えた。

(委員)

基本目標1のKPIが社会移動数のみであるところが気になる。国の施策でも第2期では自然増に力を入れるように施策が転換していると思う。高齢化が著しいので、自然減になることは致し方ないことだと思うが、出生数の実数が増えているのかということ掲げるだけでも数値として資すると思う。

(事務局)

施策のレベルでのKPIも含めて検討したいと思う。

(会長)

第2期で関係人口という言葉が出てきていると思うが、基本目標I-3がそれにあたると思う。関係人口の統計を取るのは難しいと思うが、ここもポイントだと思う。

(委員)

数値目標・KPIについて、達成しやすい目標ではないものを設定していただきたいと思う。

(会長)

高めかつ達成できそうな数値目標を設定できればよい。

6. その他

(事務局)

次回の協議会は10月末から11月ごろを予定している。改めてご連絡する。

—意見・異論なし—

7. 閉会 武岡地域創生部長 挨拶

以上—